

和歌山大学 高大接続・連携活動

オンライン出前講座を受講



七月五日(水)、本校の2年生普通科「地域と防災班」が、総合的な探究の時間で和歌山大学の高大接続・連携活動「オンライン出前講座」を受講しました。

和歌山大学教育学部の此松昌彦教授を講師にお迎えし、六月二日(金)に和歌山県北部で発生した豪雨災害と警戒レベルの改正、災害に対して私たちにできることなど

これから起こるであろう災害の被害をより小さくするために、日頃から避難所の場所を確認したり、避難バッグを使ったりするような当たり前のことからしていく。



これからは、避難するためのことを考えるだけでなく、そこからどうやって生き抜くかも考えます。小さな子供を連れた家族は、車で生活することも多かったと知って、本当に様々なところで問題が起こることがわかりました。意見を出し合うことが大事だと思います。

一人暮らしや小さな子どもを持つ人、高齢者にとって、過ごしやすい避難所の環境を作っていくことが大切だと思った。

自己の避難力を育て身につけることが、大切な人たちの命を守ることに繋がると思った。災害時には助かったが、避難生活の中で亡くなる人もいると知って、災害への知識はもちろん、その後の生活についても備えておくべきだとわかった。

の講義をしていただきました。その後、地域と防災の各班が取り組んでいる課題について、様々なご助言をいただきました。

【受講生徒による感想】

避難する時は、その時の状況に応じてどう避難したらいいのか、今からどのような行動をとればいいのかなど、冷静に考えて行動することが大事だと思いました。



東日本大震災の復興はまだ完璧に終わっていないと聞いて、復興には十数年ではなく何十年という年月がかかるのだと知って、とても驚いた。